Hello we are NVLU

緊急事態に関するメッセージ

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、5 月に入っても一向に収束の兆しが見えず、全国各地での集団感染、いわゆるクラスターが発生し、中には院内感染や福祉施設や大学等でも感染が伝えられ、また、一方で感染経路が不明な感染も多数発生している現状にもあります。

本当に大学を再開できるのか、その見通しが立たぬ中、大学報を発刊することになり、先の見えぬ不安やぶつけようのない苛立ちを抱える学生さんと学生を支える保護者の皆様、そして日本獣医生命科学大学に関わる多くの皆さんに対して、令和 2 年 3 月 27 日、大学ホームページから学生への緊急メッセージを寄稿いたしましたが、日本獣医生命科学大学を代表して、改めてメッセージを発信させていただくことにいたしました。

まず令和 2 年度新入生の皆さん、あらためて入学おめでとうございます。教職員一同、心から皆さんを歓迎いたします。また、これまで新入生をささえてこられたご家族・保護者の皆様に対しましても、心から敬意を表するとともに、お祝い申し上げます。

新入生の皆さんと 2 年次以上の在学生の皆さんには３つのお願いをお話します。１つめは本学で生命科学を学ぶ意義を改めて確認し、その知識にふさわしい責任と義務が伴うことを自覚してください。そして同世代の規範となる行動を取っていただきたいと強く願います。2 つめは学問だけではなく、色々な力、特に「自立力」を身につけてください。与えられるのを待つのではなく、自ら求めて行動を起こし、まさに現在のような逆境をも我慢強く凌げる逞しさを身につけてください。そして最後のお願いは、大学が再び開かれたときに、元気な皆さんとお会いすることができるように、お互いに健康第一で我慢の時を過ごしていきましょう。今後も長く続くであろう新型コロナウイルスとの戦いを、学生の皆さんと教職員一同、力を合わせて乗り越えていけるよう、一人一人が当事者意識を持って感染予防、感染拡大の防止に取り組みましょう。

そして学生を支える保護者の皆様、緊急事態宣言が発令されて、学生たちは不安と緊張、ストレスの増加を感じていると思います。保護者の皆様も大変な時を過ごされていることと存じますが、引き続きご支援をお願い申し上げます。本学では、学生の安全と安心を第一に考えつつ、卒業までを通じて万全の支援を行ってまいります。

最後になりますが、この危機を皆さんとともに粘り強く乗り越えて、日本獣医生命科学大学で会えることを願っています。

令和２年５月１日

日本獣医生命科学大学　学長

请水一政

ニチジュウ CAMPUSNOW News Topics

Topics

新年度抱負 ―― P2

学長　清水 一政 / 獣医生命科学研究科長　田﨑 弘之 / 獣医学部長　小山 秀一
応用生命科学部長　藤澤 倫彦 / 教務部長　鈴木 浩悦 / 学生部長　竹村 直行 / 研究部長　有村 裕

新任教員紹介 ―― P6

獣医学科 助教　黄 美貴 / 獣医保健看護学科 講師　宮田 拓馬 / 動物科学科 講師　石原 慎矢
動物科学科 助教　渡辺 雄貴 / 付属動物医療センター 助手　三浦 香奈
富士アニマルファーム 助教　萩田 祐二朗

新・エンブレム制定ーモチーフは「風になびく馬の尻尾」 ―― P9

大学が開発した商品は初！
発酵バター入りニチジュウコンビーフがむさしのプレミアムに認定

各種資格試験結果

・第 71 回獣医師国家試験結果
・2019 年度動物看護師統一認定試験結果
・バイオ技術者認定試験結果
・実験動物一級技術者認定試験結果

Congratulations on the award ―― P10

・令和元年度　紫雲賞
・令和元年度　梅野信吉賞
・令和元年度日本馬術連盟功労馬
・一般社団法人日本動物保健看護系大学協会 会長賞

一号棟 (本館) が登録有形文化財に登録 ―― P12

第71号発行にあたって

大学報「Hello, we are NVLU」第 71 号は、在学生の皆さんや卒業生の皆様をはじめ、多くの方にご協力いただきながら通常どおり発行の予定で編集作業を行ってまいりました。しかしながら、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行が今もまだ続いております。「この状況で大学広報として何ができるか」を考えた結果、少しでも大学の明るい話題をお伝えすることが使命であると考え、今号は “ニチジュウのニュース” に焦点を当て、お届けいたします。

新年度抱負

学長 清水 一政

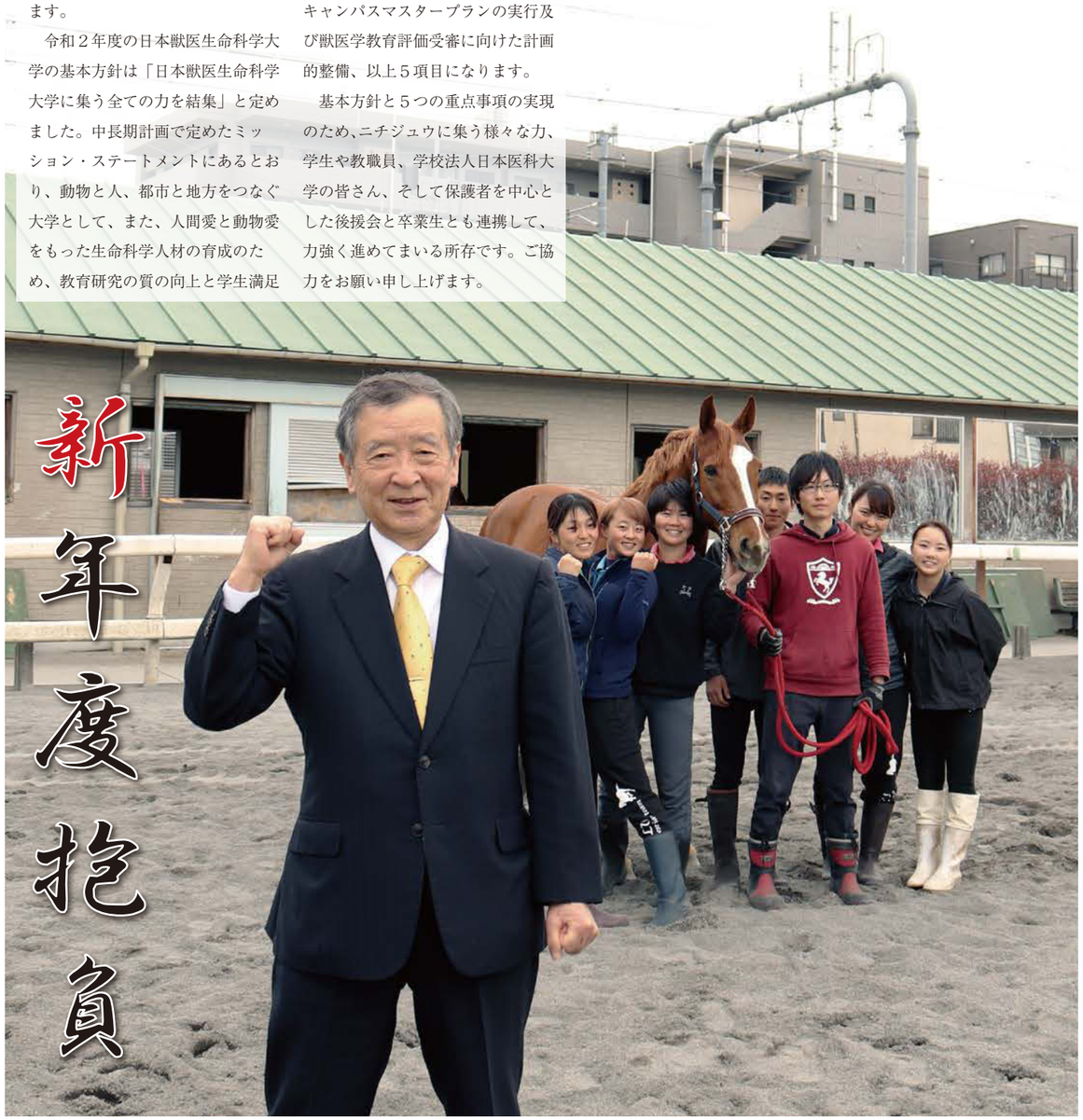
令和２年度の始まりは、新型コロナウイルス感染症への対応ではじまりました。入学式の中止、学生の登校禁止、授業やガイダンス等の日程が延期になるなど、本来であれば大変おめでたい、賑やかな４月となるはずでしたが、重苦しい、閉塞感の中での船出となりました。

だからこそ私たち教職員は学生とともに、また学校法人日本医科大学とも一体となって、話し合い、叡知を出し合いながらこの危機を共に乗り越える強い決意とともに、令和２年度を開始していきたいと思っています。

令和２年度の日本獣医生命科学大学の基本方針は「日本獣医生命科学大学に集う全ての力を結集」と定めました。中長期計画で定めたミッション・ステートメントにあるとおり、動物と人、都市と地方をつなぐ大学として、また、人間愛と動物愛をもった生命科学人材の育成のため、教育研究の質の向上と学生満足度の高い学生支援の実行、安全安心なキャンパスの整備に向けた継続的な取組みを推進すること、そして冒頭に述べたこの危機を共に乗り切ること、そのための「力の結集」を推進したいと考えております。

この基本方針の実現のために定めた重点事項は①多様な能動的学修のシステム構築とハラスメント防止の啓発活動の強化、②生命科学総合研究センターの実質化、③行政機関・産業界・高校との連携事業の推進、④ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの推進、⑤ニチジュウキャンパスマスタープランの実行及び獣医学教育評価受審に向けた計画的整備、以上５項目になります。

基本方針と５つの重点事項の実現のため、ニチジュウに集う様々な力、学生や教職員、学校法人日本医科大学の皆さん、そして保護者を中心とした後援会と卒業生とも連携して、力強く進めてまいる所存です。ご協力をお願い申し上げます。



獣医生命科学研究科長 田﨑 弘之

本学の大学院研究科は、1962 年に設置されました。現在では、獣医学・獣医保健看護学・応用生命科学の三専攻からなる教育研究組織となっています。研究科では、それぞれの専攻分野における技術革新、研究水準の向上に対する社会的要請の高まりに対応できる優秀な人材を世に輩出して社会に貢献することを目的としています。本学では、就学後には、TA（ティーチングアシスタント）、RA（リサーチアシスタント）制度を取り入れており、学部学生の教育指導や指導教員の研究の補助を通した学びと経済的な補助に努めております。

さらに、大学院修了後に博士の学位を得た学生に PD（ポストドクター）採用枠を設け、研究者としての成長を手助けする制度があります。今後、第３次大学院教育振興施策要綱に基づく大学院教育の高度化への取り組みを促進させるため、専門分野の枠を超えた教育プログラムの検討を進めて参ります。

獣医学部長 小山 秀一

今年度は、獣医学科および獣医保健看護学科とも大切な年になります。獣医学科は、2023 年度に受審予定の獣医学教育評価に向け教育施設の充実を進める年になります。本学に不足している施設を拡充していく上で、出来るだけ利用効率が良く、かつ教育効果が高い施設となるよう検討していく必要があります。獣医保健看護学科は、愛玩動物看護師法が施行されたため、国家試験に向けてカリキュラムおよび教育内容の再検討を行う必要があります。我が国の動物看護師教育のリーダーシップを取れるような、充実した内容にしなければなりません。

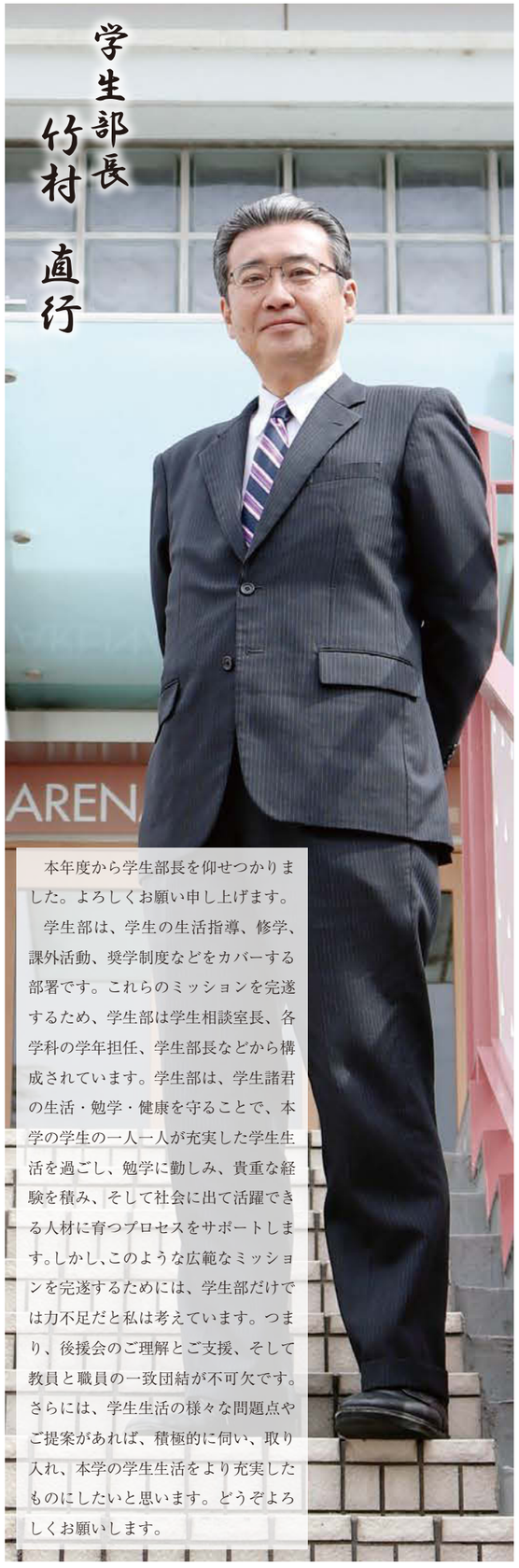
そして、これらの課題に対しての対応と同時に、より魅力および特色のある学部にするため、両学科の教員が一丸となって将来を見据えた教育体制・内容の検討を始める年となることを期待しています。

応用生命科学部長 藤澤 倫彦

応用生命科学部では近年における 18 歳人口の減少に対応するため、新年度はこれまで以上に本学部の魅力が伝わるよう、広報活動に全力を尽くす所存です。本学の立地、研究や教育内容を主なセールスポイントといたしまして、学部紹介パンフレットや動画の制作、学部ブランド商品の開発、教員の高校訪問や TV 出演など、現在、様々な手段を講じて広報活動を展開しております。一方、国及び民間の各種資格（健康食品管理士、化学分析技能士、フードサイエンティスト、HACCP 管理者、総菜管理士など）取得のためのカリキュラム改編や時代に即した新たな講義の開設など、学部の魅力作り、特色作りを進めており、一部実現させております。また、入学試験においても、入試科目の改正を実施するなど、受験生の確保に向けた検討を進めているところです。さらに、新年度より富士アニマルファームの整備や学科内における新コース設置に向けた検討を本格的に行う予定です。

教務部長 鈴木 浩悦

新年を迎えるに当たり教務部長を拝命し、気の引き締まる思いで日々を過ごしています。清水学長のご指導のもと、教員は充実した教育を実施でき、学生は日々の学習に集中できる、そんな環境作りに徹していく所存です。昨年末に発生した新型コロナウイルス感染症によって、人類はこれまでに経験したことのない経済的・人的打撃を受けており、本学の教育研究活動にも影響が生じています。大学は新しい情報を正確に捉え、論理的に判断し、臨機応変に対応することが求められています。いろいろな場面で、学生、教職員、父母の皆さんにご理解とご協力をお願いすることになるでしょう。この危機を乗り越えるためには、大学関係者が気持ちを一つにして進むしかありません。禍を転じて福と為す。どうぞ宜しくお願いします。



学生部長 竹村 直行

本年度から学生部長を仰せつかりました。よろしくお願い申し上げます。

学生部は、学生の生活指導、修学、課外活動、奨学制度などをカバーする部署です。これらのミッションを完遂するため、学生部は学生相談室長、各学科の学年担任、学生部長などから構成されています。学生部は、学生諸君の生活・勉学・健康を守ることで、本学の学生の一人一人が充実した学生生活を過ごし、勉学に勤しみ、貴重な経験を積み、そして社会に出て活躍できる人材に育つプロセスをサポートします。しかし、このような広範なミッションを完遂するためには、学生部だけでは力不足だと私は考えています。つまり、後援会のご理解とご支援、そして教員と職員の一致団結が不可欠です。さらには、学生生活の様々な問題点やご提案があれば、積極的に伺い、取り入れ、本学の学生生活をより充実したものにしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

研究部は、本学における研究の推進・発展を目的としています。そのためにまず学内研究費や教育研究装置の配分について審議します。加えて、科研費などの競争的資金を積極的に取りに行く体制作りや、その間接経費の取り扱い、外部機関との共同研究の促進についても議論します。また研究倫理、研究費の適正使用についての内容を更新し、近年何かと厳しくなってきた様々な約束事を周知し、コンプライアンスの意識を高めることも業務に含まれます。

以上の一般的な業務に加えて、本学における特色ある研究プロジェクトの募集と推進、ニチジュウ シンポジウムの開催、科研費インセンティブの配布なども進めています。即ち、本学の重要な研究、ユニークな研究を発掘する作業とともに、学科横断的な交流を盛んにすることで、学内の共同研究も促しています。また今後、研究支援のためのバイオリソースを保存する設備を用意する必要があると考えています。

研究部長 有村 裕

新任教員紹介

4月より本学に着任した6名をご紹介します

【略歴】
2016年日本獣医生命科学大学を卒業後、同大学大学院にて博士号を取得。学部生時代から獣医解剖学研究室に所属し、イヌの皮膚肥満細胞腫の研究を行い、現在に至る。

獣医学科　獣医解剖学研究室
助教　黄　美貴

――本学をご卒業後、大学院に進み、そして本学に助教として着任されました。今のお気持ちはどうですか？

学生が終わって間もないため、さすがにまだ実感は湧きませんが、気持ちを切り替えて努めていきたいと思います。

――獣医解剖学研究室を選んだ理由を教えてください。

私が学部生の時は、オーストラリアに生息する動物の研究を行っていて、興味があったので入室しました。最初はウォンバットについて研究していたのですが良い結果が得られず、卒業研究はイヌを題材にしました(笑)

――その後、大学院に進まれた理由を教えてください。

「研究が面白い！」と思ったからです。そのまま仕事にできれば良いけれど、できなくても研究をしたいと思いました。結果的に私は今こうして助教として働かせていただいているので、運が良かったです。

――解剖学は1～2年次で開講しています。学ぶときのコツなどありますか？

これは解剖学や学科に限らずですが、大学は高校までとは授業のやり方が全く違います。慣れない大学の授業、加えて専門科目は大変かと思いますが、まずは大学の授業に早く慣れることが学ぶ際のコツだと思います。あと、研究室配属前はタテの繋がりが作りにくいので、人との繋がりを作っておくことも大切かなと思います！

――最後に、在学生へメッセージをお願いします！

今、もっと授業をきちんと受けておけばよかったと思うことが度々あります(笑)学べるのは今しかないので、たくさん学んでください！

【略歴】
2009年日本獣医生命科学大学を卒業後、同大学大学院にて博士号を取得。臨床獣医師として勤務後、帝京科学大学教員として動物リハビリテーションの研究、動物看護師の教育に努め、現在に至る。

獣医保健看護学科　獣医保健看護学臨床部門
講師 宮田　拓馬

――これまでの経歴を教えてください。

動物病院に勤務していた時、整形疾患や神経疾患に対するリハビリテーションに出会いました。その後、以前より興味があった動物看護師教育に携わる機会を得て、前任校では病気ごとのリハビリテーションメニューの検討などの研究を行ってきました。研究室の学生には実際のリハビリテーションに参加してもらい、動物看護師に必要な技術、技能を実践しながら習得してもらえるよう、動物看護教育にも取り組みました。

――学生時代を過ごした場所に着任されますが、どうですか？

とてもワクワクしていますし、母校に教員として戻ってこれたことをとても光栄に思っております。大学の雰囲気は変わらずアットホームで、所属していた獣医外科学研究室前の汚さは変わっておらず、安心（？）しました（原教授ごめんなさい）。

――最後に、意気込みをどうぞ！

愛玩動物看護師法成立により、さらに動物看護師の活躍の場が広がると思います。動物リハビリテーションにおける看護師の役割について明確化し、看護師ならではの取り組みができるよう努めたいと思います。学生の皆さんはぜひ、今だからできることを堪能してください。勉学も大切ですが、アルバイトで社会を学んだり、海外旅行で日本との違いを感じたり（世界的な感染症流行が落ち着いてからですね）。大学の友人は一生ものです。素敵な仲間達とニチジュウ生活を楽しんでください！

――これまでどのようなことをされてきましたか？

大学院ではフィリピンにおける希少野生水牛タマラオ（ミンドロスイギュウ）の保全に関わる研究を行いました。現地のレンジャーと山奥に寝泊まりし、調査を行いました。

――楽しそうですが同時に過酷そうですね…（笑）

時にヒルに血を吸われたり、お腹がゆるくなったりと辛いこともありました。ですが自然は本当に美しく、楽しいこともたくさんありました。彼らは心からタマラオを大切にしており、この研究を通じて動物と人の関わりの大切さを学びました。その後国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）のポストドクターとして、ベトナムにおける希少家畜豚の保全に関わる研究に携わってきました。

【略歴】
2007年筑波大学卒業後、同大学大学院にて博士号取得。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構のポストドクターとして国際的な動物保全の仕事に携わり、現在に至る。

動物科学科　動物遺伝育種学教室
講師　石原　慎矢

――これまでどんな研究をされてきましたか？

岐阜大学ではニワトリのストレス応答に関する卒業研究、名古屋大学大学院ではキスペプチンニューロンの機能や制御メカニズムの研究を進めてきました。大学院卒業後は、ポストドクターとして東京大学でウシの暑熱ストレスに関する研究を行い、その後、日本医科大学大学院解剖学・神経生物学分野の助教として着任しました。ここでは、解剖学教育に従事する傍ら、哺乳類の繁殖機能の脳内制御メカニズム解明に向け、研究を行ってまいりました。

――日本医科大学大学院にいらっしゃったのですね。本学のイメージはどうでしょう？

キャンパス内の綺麗な桜の木とウシのベンチが印象的ですね。学会の会場で使用した際、満開の桜とウシのベンチが参加者をお出迎えしてくださり、そのときの桜が色濃く目に焼き付いています。これから毎年見れると思うとますます春が楽しみになりそうです。また、すごくマニアックな話になってしまうのですが、Wistar-Imamichi というラットの系統を確立された故 今道友則先生が第4 代学長を務められた大学という印象があります。このラットは非常に扱いやすく、繁殖の研究をする私にとって欠かせない存在です。

――意気込みをお願いします！

人と動物の関わりは切っても切り離せないものです。これまで希少種保全の研究を主に行ってきましたが、これからは環境問題など新しいテーマにも挑戦し、動物科学分野の発展に貢献していきたいです。また、学生には学ぶことの面白さを伝え、頼りにされる教員になれるように尽力したいと思います。

――学生へメッセージをどうぞ！

私が常々意識していることは0と1は全然違う、ということです。何もしなければ何も得られませんが、まず何かやってみることでわずかであっても必ず得られるものがあるということです。遊びでも勉強でも様々なことにチャレンジし、多くの経験を積んでほしいと思います。特に、皆さんの多くは動物に強い興味をもっていると思うので、せっかくの大学生活、とことん突き詰めて勉強してみてください。全力で挑戦することによって得られる経験は何よりも代えがたいものになるでしょう。皆さんと動物について語り合うのを楽しみにしています。

【略歴】
2011年岐阜大学卒業後、名古屋大学大学院にて博士号を取得。ポストドクターとして東京大学農学部獣医繁殖育種学教室で研究後、日本医科大学大学院解剖学・神経生物学分野に助教として着任し、現在に至る。

動物科学科　動物生理制御学教室
助教　渡辺　雄貴

自分のバックボーンである畜産学分野に戻ってまいりましたので、農学教育を通じて広く社会に貢献できる学生の育成や、農業の現場での問題解決に資する基礎研究に尽力していきたいと思います。社会の役に立ち、かつ、科学的にも面白い研究を展開していけるように頑張りたいと思います。

【略歴】
2010年北里大学を卒業後、臨床獣医師として一次診療病院に勤務。その後、日本獣医生命科学大学付属動物医療センター研修獣医師として勤務し、現在に至る。

付属動物医療センター
助手　三浦　香奈

――一次診療病院にお勤めされていた中でのやりがいを教えてください。

どんな症例がどんな症状でいつ来るか分からないため幅広い知識が求められること、提供できる技術・設備に限りがあることが悩ましいと感じることがありました。その分、患者さん、飼い主様との距離が近かったように感じます。その子のかかりつけ病院として単に病気に対してだけでなく、飼い主様との生活をトータルで考え、より良く出来るようにお手伝いすることには、地域のかかりつけ病院としてのやりがいを感じていました。

――数年間お勤めされたのち、付属動物医療センターで研修されています。なぜ研修獣医師になろうと思ったのでしょうか？

いくつか理由がありますが、一番大きな理由は日々の診療を重ねる中で、自分の知識不足、経験不足を感感じたためです。また、紹介症例を通じて各専門科があり、正しい知識を常に更新していく二次診療病院への憧れを感じていました。

――そして付属動物医療センター専任獣医師になられました。専門に麻酔を選ばれたのはなぜですか？

本学の研修医制度では、内科外科問わず全科の研修を受けることが出来ます。その中で徐々に興味を持ち始めました。それぞれの専門家が集うチーム医療というものに参加したい、という気持ちも研修を通して強くなりました。研修医に麻酔をする機会を多く与えてもらえた事も、気持ちを後押ししてくれたと思います。

――最後に、在学生にメッセージをお願いします！

興味ってとても大切だと思います。獣医師の就ける職業は、臨床、非臨床を含めてかなり幅が広いです。自分の興味ある分野を選ぶために、学生さんのうちにたくさんの職場をぜひ直接、見聞きしてみてください。

【略歴】
2013年日本獣医生命科学大学を卒業後、みなみ北海道農業共済組合に獣医師として7年間勤め、現在に至る。

富士アニマルファーム
助教　萩田　祐二朗

――はじめに自己紹介をお願いします。

2013年に本学獣医学部獣医学科を卒業し、7年間みなみ北海道農業共済組合(旧道南農業共済組合、以下、NOSAIみなみ)で乳牛及び肉牛の診療、人工授精及び繁殖検診業務を行っていました。NOSAIみなみは北海道南西部に位置しており、札幌市や函館市、小樽市などが管内にあり、比較的温暖な暮らしやすい地域でした。

――7年間産業動物獣医師としてご活躍されてきたのですね。その中でどんな時にやりがいを感じましたか？

今まで得た知識や経験から、農家さんの悩みを解決し、「ありがとう」や「助かった」と言われたときにやりがいを感じます。

――これまでの経験を生かし、母校の付属牧場である富士アニマルファームに着任されますが、今どんなお気持ちですか？

今まで臨床現場で培ってきた経験や技術がどれほど役立てられるのかという期待と、諸先生方の様々な活躍により支えられてきた牧場ですので、役に立たなければという重圧を感じています。

――意気込みと、在学生へのメッセージをお願いします。

勉学や技術の研鑽に励むとともに、吉村牧場長のような立派な人格者になれるよう、努力していきたいと思います。

学生の皆さんは、ぜひ自分が今興味を持っている、関心があることに励んでください。充実した学生生活になることを祈念しています。

新・エンブレム制定
モチーフは「風になびく馬の尻尾」

ニチジュウでは学生及び教職員の一体感を醸成するとともに、本学の歴史とこれからの発展を社会にアピールすること、また、本学のブランド力向上の観点から、この度新エンブレムを制定しました！

学生・教職員を対象としてデザインに関するアンケートを実施し、最も投票の多かったデザイン案に、「動物をモチーフにしたデザインを取り入れてほしい」との意見を反映しました。

完成した新エンブレムは、「地球」「NVLU」「1881」「風になびく馬の尻尾」で構成しており、本学の学問領域、歴史を表しています。また、獣医師発展の起源は「馬医」であり、馬の治療や衛生であったことから、風になびく「馬」の尻尾を動物のモチーフとして取り入れ、未来へ進むスピード感と学生が新たなステップへ昇っていく「飛躍」のイメージを表現しました。カラーは大学カラー(紫紺) と広報カラー(茜) を採用しています。

大学が開発した商品は初!
発酵バター入りニチジュウコンビーフがむさしのプレミアムに認定

2020年1月、発酵バター入りニチジュウコンビーフが武蔵野市の魅力あるおみやげ品「むさしのプレミアム」に認定されました。

「むさしのプレミアム」とは、武蔵野市を代表する魅力ある商品をおみやげとして広く内外にPRし、地域ブランドの確立と地域活性化を推進するため、目的にふさわしい商品が認定されます。武蔵野市民の皆様、そして企業の方々が審査員となり、昨年末、審査会が行われました。

審査会では「地元大学の学生が開発したという取り組みが素晴らしい」「武蔵野市の良いアピールになる」「コンビーフが苦手な人でも食べられる」と非常に好評で、この度、見事認定されました。2014年から続くむさしのプレミアムで、大学が開発した商品が認定されたのはなんとニチジュウが初！認定に伴い、百貨店や駅ビルを中心に店舗を展開する青果専門店「ころくや」武蔵境店でも一般販売を開始しています。

●むさしのプレミアム
武蔵野市の魅力ある商品を「おみやげ品」として広く内外にPRすることで地域ブランドの確立と地域活性化を推進することを目的として認定されるもの。認定期間は3年間。

「食べてみたいかも」と思った方に朗報です！
インターネットからもお買い求めいただけます。ぜひご覧ください！

各種資格試験結果

第71回 獣医師国家試験結果

●本学学生結果
試験日：令和2年2月18日(火)・19日(水)
受験者：95名
合格者：92名
合格率：96.8%
※全国平均合格率(新卒)：94.2%

2019年度動物看護師統一認定試験結果

●本学学生結果
試験日：令和2年3月1日(日)
受験者：114名
合格者：113名
合格率：99.1%
※全国平均合格率：89.7%

バイオ技術者認定試験結果

ニチジュウでは就職活動支援及びバイオ関連科目習熟度の自己評価として、中級試験(2年次以上)、上級試験(3年次以上)の受験(任意)を推奨・支援しています。

●本学学生結果
第28回中級バイオ技術者認定試験
合格者数54名
　獣医保健看護学科33名
　動物科学科18名
　食品科学科3名
第25回上級バイオ技術者認定試験
合格者数12名
　獣医保健看護学科6名
　動物科学科6名

実験動物一級技術者認定試験結果

実務経験を有する社会人向けの資格で、医薬品開発における前臨床試験や、実験動物の飼育管理の分野で特に求められています。

ニチジュウの獣医保健看護学科と動物科学科で特例認定大学(※全国12大学15学科が認定)となっているため、学部生でも資格試験を受験することができ、毎年合格者を輩出しています。

今回は特例認定校の中で合格者数日本一になりました。

●本学学生結果
合格者数9名(動物科学科)

動物科学科の取り組み詳細はこちら⇒

令和元年度　紫雲賞

日本獣医生命科学大学後援会の協賛事業で、本学の学生の教育並びにその推進に優れた貢献をした教員および団体を表彰します。

紫雲賞（ベストティーチャー賞）
応用生命科学部 動物科学科
教授　藤平 篤志

受賞理由：「基礎実験動物学」の授業評価

――講義テクニックはどこで身につけましたか？

東京薬科大学、獨協医科大学、本学と3つの大学を経験していますが、それぞれの環境でFD的な講演を参考にし、良いと思った方法は取り入れるようにしています。
※FD(Faculty Development)：教育内容・方法等をはじめとする研究や研修を大学全体として組織的に行うこと

――どのような講義スタイルを取っているのでしょうか？

講義中の私語は一切厳禁です。「厳しい」との意見もありますが、「静かで良い」という意見が毎年、一番多いです。真面目に勉強したい、講義に集中したいという学生さんが実は多いのだと思います。

――グループディスカッションはどんなことをするのですか？

講義に入る前に、前回の講義内容の復習をします。3～4人でグループを組み、8問出題し、グループ内で考えてもらいます。FD講演会からヒントを得て、2～3年ほど前から実施しています。

受賞理由：「English Reading I (Za)」「Intermediate English」等複数の授業評価

――講義テクニックはどこで身につけましたか？

塾講師、家庭教師、運動部のコーチ、中学校・高等学校、専門学校、大学と、様々な職種、様々な教育機関で教える機会を得られたことで、自然と指導技術が磨かれていったのかもしれません。

――授業の題材が毎回考えさせられる内容だそうですが、どうやって選んでいるのですか？

朝日新聞社の「天声人語(英語版)」から、学生の皆さんの中高生時代に起こった出来事を扱っていて、一緒に考えたいテーマが含まれているものを選んでいます。

――「ゆとりの日」があると伺いましたが、どんなことをするのですか？

「ゆとりの日」は4～5回に1回設けています。英語の歌を翻訳したり（和訳ではなく、翻訳であることがポイント！）、海外で購入した英語力UPに繋がるゲームを取り入れたりして、楽しみながら異文化を体験しています。おすすめはワードゲームの「Boggle®」と、カードゲームの「52® Rainy Day Activities」です。

紫雲賞（ベストティーチャー賞）
応用生命科学部 動物科学科
准教授　鴇﨑 敏彦

紫雲賞
応用生命科学部 食品科学科
准教授　三浦 孝之

受賞理由：食品科学科インターンシッププログラムの開講に尽力し、新たな学びや経験の場を創造した。

――普段の授業や実習とは違い、気をつけている点などありますか？

学生のアイデアを生かした新商品の開発を目的としているため、学生が意見を発言しやすい環境づくりを最も心がけました。

――担当されて、やりがいを感じたことを教えてください。

このプログラムは産学連携先企業の協力によって初めて実現しました。大学にとっても「企業×大学×学生」というのは初の試みでしたが、就労体験だけではなく、実際に社会へのアウトプット(商品化)を目指して活動するため、普段の授業以上に学生自身が自発的に行動する姿を見ることができました。

梅野信吉賞
応用生命科学部 動物科学科
准教授　柴田 昌宏
（※職位は受賞当時）

研究題目：筋肉内遺伝子発現を活用した多様な肉用牛肥育技術の開発に関する研究

日本の肉用牛肥育は穀物飼料を多給しており、その大部分を輸入に依存している。そこで、穀物飼料に依存しない、牧草や飼料イネなどの粗飼料による肉用牛肥育に関する研究を行った。また、肉用牛肥育には長期間を要するため、加速化を図る必要がある。そこで、肥育牛における遺伝子発現を活用することで、生体反応を推測し、肥育過程における枝肉ならびに肉質評価に関する研究を行った。

――これからの研究の展望を教えてください。

この分野の研究は、一つの結果が出るまで長時間を要し、その積み重ねの上に肉用牛の肥育システムの確立があります。草食獣としての機能を活かし、分子情報を活用した肥育技術の研究開発は現在でも続いており、その出口の一つは富士アニマルファームにおいて肥育した牛肉を本学のブランドとして送り出すことだと考えています。

研究題目：てんかんを含む神経疾患を中心とした遺伝性疾患の臨床分子生物学的研究

獣医神経病学分野においても、医学と同じように遺伝性疾患が潜在しているが、ほとんどが臨床的な特徴付けのみで、遺伝子解析まで到達できていない。そこで、分子生物学的手法を用いて、犬や猫の神経疾患を中心とした遺伝性疾患の遺伝子解析を行い、それらの発症メカニズムの解明を目指す。複数の疾患の原因遺伝子をこれまで同定してきた。

――これからの研究の展望を教えてください。

学生時代から神経病や遺伝医学に興味を持ったことをきっかけに、今まで国内外の垣根を越え、犬猫の様々な遺伝性神経疾患の研究に取り組んできました。最近では神経疾患のみならず、また獣医・医学の垣根を越えて様々な遺伝性疾患の研究をさせていただいております。これらの研究が遺伝性疾患の治療の糸口になることを望んで日々模索しています。

梅野信吉賞
獣医学部 獣医学科
ポストドクター　湯 祥彦

令和元年度　梅野信吉賞

日本獣医生命科学大学同窓会の協賛事業で、若手研究者の奨励を目的とし、顕著な研究業績を挙げ本学の栄誉に貢献した教員を表彰します。

令和元年度日本馬術連盟功労馬の表彰について【馬術部 飛煌(ひこう)号】

令和2年1月25日(土)、グランドプリンスホテル高輪にて、馬術部の飛煌(ひこう 旧馬名ゴールゲッター)号が、永年に亘る日本馬術部会における功労馬として表彰されました。
ニチジュウからは、タカラコスモス号、アイダホ号、飛龍(ノックアウト)号、ブラブ・モンブレイ号に続く5番目の功労馬となりました。

「一般社団法人日本動物保健看護系大学協会」会長賞　関根俊さん

動物保健看護系大学協会は、2008年4月「全国動物保健看護系大学協会」(JAVNTC)として設立され、現在は全国の9大学で構成しています。初代会長は獣医保健看護学科初代学科主任でもある福所秋雄先生。

各大学の優秀学生1名(各大学の理事からの推薦)に、会長賞を贈っています。

今年は関根俊さん(2020年3月卒業)が選ばれ、表彰されました。

一号棟（本館）が
登録有形文化財に登録

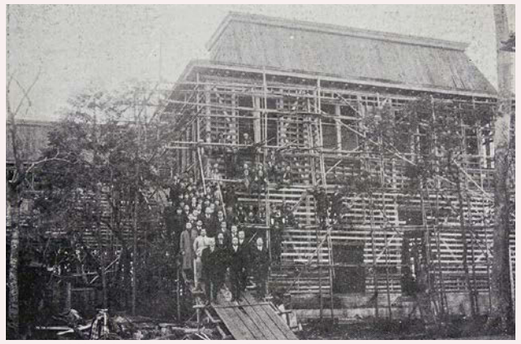
令和2年4月3日付で、一号棟が国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

登録有形文化財制度は、より多くの文化建造物を守り、地域の資産として活かすために1996年に創設されました。登録されると建物の保存・活用に必要な修理等の費用の補助を受けられたり、建物を地域活性化事業に活用する際にかかる費用の補助が出ます。修理や管理について、国(文化庁)に技術的なアドバイスを求めることもできます。

石井学芸員に聞く！
一号棟の4つの見どころ

付属ワイルドライフ・ミュージアム
石井 奈穂美学芸員

▲移築当時の一号棟。今の一号棟とは少し違います。
(出典：日本高等獣医学校 専門学校第5期生卒業アルバム)



▲移築工事の様子。一度バラバラにした建材を、組みなおします。
(出典：日本獣医学校校友会(1937)「日獣会報(目黒友報改題)第十四号」)

六本木から来た一号棟

日本獣医生命科学大学は、1881年、東京・小石川に日本最初の私立獣医学校として開校しました。その後市ヶ谷、目黒校舎などを経て、1937年には現在の所在地である東京都武蔵野市に移転しました。この武蔵野市への移転の際、麻布市兵衛町(現 港区六本木三丁目)にあった旧東京市麻布区役所庁舎を買い取り、移築したものが現在の一号棟なのです。

この旧東京市麻布区役所庁舎は、東京都内に唯一現存する明治期の役所建築です。

六本木にあった建物をどうやって武蔵野市まで運んだの？

麻布区役所庁舎があった六本木から武蔵境までは、直線距離でも約 17km 離れているため、建築物をそのままの状態で移動させる曳家での移築は困難です。そのため、いったん建物を解体し、バラバラにした状態で運びました。運び込んだ建材を現在の場所で組み立てている様子が、当時の学友会報に残っています。

ついに発見された２枚の棟札

棟札とは、屋根の頂部の木材(棟木)や、棟木を支える柱(棟束)に設置される、建物名や年月日などの情報を記した木札のこと。棟札は再建や修理の際にも作られます。

一号棟の棟札が発見されたのは、2018年5月のこと。棟札が、麻布区役所庁のものと一号棟のものの2枚存在することは分かっていましたが、どこにあるのかは不明でした。

しかし、登録有形文化財への登録に向けた調査の際、ついに2枚重なった状態で発見されたのです！発見された棟札は現在は取り外され、博物館の資料として保管されています。

▲長さはなんと約 180cm！

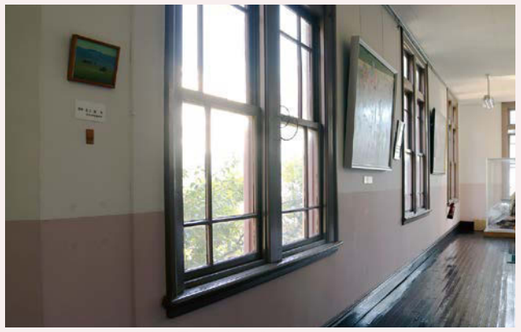
▲2 枚重なって発見されました。

キラリと光る職人技

一号棟の階段1段目の石の部分には「人研ぎ(じんとぎ)」という技法が使われています。

人研ぎとは、正式には「人造石研ぎ出し仕上げ」という建築技法で、大理石などの粉石とセメントを混練したものを塗りつけ、硬化後に表面を研磨・艶出ししして仕上げます。昔は人件費が安く、石材が高かったため、石のような仕上がりになる「人研ぎ」が多く用いられていました。昭和40年代以降はあまり用いられることはなく、現在ではほとんど見かけません。

▲現在施工できる職人はかなり少ないようです。



▲実際に見ると違いがはっきり分かります。

窓にも注目してみましょう。何気なく見ている窓、よく見ると窓の外の木や建物が歪んで見える箇所があります。これは昔の板ガラスを使用しているためです。

日本は1897年頃まで、板ガラスは輸入に頼っていました。しかし、麻布区役所庁舎が竣工した1909年に、旭硝子で手吹円筒法による板ガラスの生産がスタートしました。一号棟の窓ガラスは一部が新しいものに交換されていますが、もしかしたら日本における生産初期の板ガラスが残っているのかもしれません。

歴史を学べる、野生動物を学べる博物館

2階には、日本獣医生命科学大学付属ワイルドライフ・ミュージアムがあります。ワイルドライフ・ミュージアムは自然系展示室と歴史系展示室があり、歴史系展示室では本学の歴史を中心に展示しています。大学についてもっと学びたい方は、ぜひ足を運んでみてください。

▲歴史系展示室

ただいまワイルドライフ・ミュージアムは、ご来館くださった皆様により安全に楽しんでいただくため、2021 年 3 月末（予定）まで耐震工事を行っています。現在見学はできませんが、展示再開の際には多くの皆様のご来館をお待ちしております！

▲自然系展示室

nichistagram

stay home

Related Hashtags：#ご投稿くださった皆さま #ありがとうございます #次回もまた投稿してね

k_a.nutrition_

#イラスト　#似顔絵
#ご依頼はDMで

glycine_fk

#家 #自宅 #ダンベル #筋トレ
#家トレ #トレトレ #レレレ
#お家で過ごそう #stay home!!

Vol.71 表紙絵

A.S.さん（獣医保健看護学科3年次）

今回は、新しい大学のエンブレムや一号棟のニュースなどの大学報ということでした。新しいエンブレムは馬の尾がデザインされていたので、「馬」「一号棟（登録有形文化財）」「学生」をモチーフに「楽しい雰囲気」「沢山の動物」をイメージし、メリーゴーランドをベースに描きたいものを詰め込んでみました。目に入った時にふと気になって貰えるよう、蛍光色やグラデーションでカラフルに（特に馬はエンブレムを彷彿とさせるように）着色しました。ワクワク、夢いっぱいな雰囲気を感じて貰えたら嬉しいです。
(※大学ホームページのメインビジュアルとしても使用しています。)

Hello,we are NVLU(ニチジュウ) -日本獣医生命科学大学報-第71号(2020年5月号)　2020年5月31日発行
協力(以下敬称略)／教職員：清水一政　田﨑弘之　小山秀一　藤澤倫彦　鈴木浩悦　竹村直行　有村裕　黄美貴　宮田拓馬　石原慎矢　渡辺雄貴　三浦香奈
萩田祐二朗　藤平篤志　鴇﨑敏彦　三浦孝之　柴田昌宏　湯祥彦　石井奈穂美
その他ご協力いただいた皆様ありがとうございました!
表　紙／A.S.
編集・発行／日本獣医生命科学大学　IR推進委員会
(編集委員)渋井達郎　近江俊徳　野瀬 出　知久和寛　高橋 勝　大沼友美　服部沙由花　上野美可子
印刷／相互ビジネスフォーム株式会社